

## Ⅱ 地域農業を支える組織の育成

# 茶生産の拡大と加工品開発

四国中央農業指導班

嶺南(新宮・富郷・金砂)地域は、生産者 420 戸が 48ha で茶を栽培しており、無農薬栽培による安全・安心なブランド茶の産地です。

近年、ライフスタイルの変化に伴い、ペットボトルのお茶が普及し、高級茶葉の需要が落ち込んでいます。このため、無農薬茶の安定生産と販売促進による消費拡大、菓子製造業者と連携した茶の新たな商品開発や加工施設の整備を支援しています。

## 安全・安心な茶栽培の推進

葉緑素計を利用し収穫適期を判断する技術を実証・普及するなど、かぶせ茶の品質向上に取り組んでいます。

また、萱やカキガラ投入による土づくりや除草の徹底で環境整備を図り、無農薬による安全・安心な茶の生産を推進しています。



葉緑素計で摘採適期を判定



手もみ茶づくりの実演

## 茶の販売促進支援

新茶まつり(霧の森お茶まつり、お茶摘み体験 in 富郷)の開催にあわせ、茶摘み体験や家庭でつくれる「手もみ茶づくり」の実演・試飲を行っています。また、各地の物産展やイベントでは、ブランド茶をPRし、茶の消費拡大と顧客づくりを支援しています。

## 加工品開発や施設整備の推進

えひめ農商工連携助成事業を活用し、別子飴本舗(新居浜市)との提携で、茶の粉末を用いた飲料や菓子を商品化し、販売を開始しました。

また、認定農業者経営改善支援事業による茶包装機や冷凍庫などの施設整備を図り、品質向上と経営改善の取組みを支援しています。



抹茶カプチーノ、キャラメル、クッキー

## 農業体験・交流活動から農業の魅力を発信

### しまなみ農業指導班

しまなみ農業指導班では、伯方地区集落組織の尾浦組（会員 30 名）を中心に、しまなみグリーン・ツーリズム協議会と連携して都市と農村との交流、地域特産品の開発や普及、耕作放棄地の有効活用に取り組み、地域の活性化を図っています。

### 修学旅行生等との交流

グリーン・ツーリズム協議会と連携し、埼玉県などの中学校 3 校 183 人の修学旅行生を受け入れ、サツマイモ掘りやレモン狩りなどの体験学習を行い交流を深めました。

今後は、共同菜園で栽培した野菜の収穫、加工等の農業体験の内容を増やし、修学旅行生との交流回数を増やしていきます。



修学旅行生が農業体験



会員による商品開発

### 特産品を利用した商品開発

しまなみを訪れるサイクリスト等をターゲットに地域特産品のレモンと寒天を利用した「レモンゼリー」を開発しました。また、大豆・ゴボウ・レンコンなどの野菜とちりめんやキクラゲが入った保存食「伯方島酢大豆」を開発しました。

今後は、これらの商品化とともに加工所の設置や販売を支援し、6次産業化を目指します。

### 耕作放棄地を共同菜園利用

耕作放棄地 8 a を共同菜園として開設し、修学旅行生の農業体験や地産地消を進める学校給食用食材供給の場として、野菜栽培を始めました。

今後は、年間を通して野菜の収穫体験ができる作付体系づくりや給食センターと連携した野菜づくりを進めていきます。



共同で野菜づくり



## 鳥獣被害に強い集落づくりの推進

伊予農業指導班

伊予市では、イノシシ等の鳥獣による農作物被害が増加しており、農業者の農業生産意欲の減退が懸念されています。

そこで、上吾川集落をモデル集落とし、集落全体で鳥獣害防止対策に取り組み、集落営農の活性化を目指すとともに、他集落への波及を図っています。

### イノシシ侵入防止柵の効果実証

イノシシの生息実態を把握するため、愛媛大学と連携し、センサーカメラを設置し、行動を調査・観察しました。

観察結果を基に箱罠を設置し、2頭のイノシシを捕獲することができました。また、ワイヤーメッシュの侵入防止柵で囲んだ実証圃を設け、柵の効果も確認しています。

今後は、これらの対策を集落ぐるみで取り組むとともに、他地区へも波及していく予定です。



実証展示圃及びセンサーカメラ設置場所



稲刈り後の耕起

### 水田耕起による餌付阻止

冬期に放置されたヒコバエがイノシシの餌となり、餌付けされたイノシシが、集落に襲来するようになっていました。

そこで、稲刈り後に耕起を行ったところ、ヒコバエの発生が無くなり、餌付けの阻止ができました。

集落全体の稲刈り後の水田を耕起することによって、集落とイノシシの距離が開き、集落への侵入の機会が減少することが期待されています。

### 除草剤注入による竹やぶ管理の実証

耕作放棄地に繁茂する竹やぶがイノシシの隠れ場になっており、周辺圃場での被害が拡大してきました。

そこで隠れ場をなくすため、竹の中に除草剤を注入して枯らす試験を開始しました。完全に枯れるまで1年程度経過を観察しながら、その後の農地の管理や再生方策も実証を行うこととしています。



除草剤の注入

# 集落ぐるみで鳥獣害対策に取り組む！！

## 南予地方局産業振興課地域農業室

宇和島市津島町増穂集落は水稲作が主となっており、約 32ha の水田があります。ここは山林に囲まれた谷状の地形であり、イノシシ・ニホンジカによる水稲被害が深刻な状況になっています。

このため、当集落をモデル集落として被害対策技術の実証と習得を行うとともに、各種事業を有効に活用しながら、地域の課題となっているイノシシ・ニホンジカの被害対策に取り組みました。

### モデル集落の活動支援

愛媛大学と連携した集落づくり事業のモデル集落として、座談会や検討会を開催し、地域の課題や今後の進む方向を決めることができました。

また、関係機関との連携により、補助事業を活用しフェンス（2,550m）を導入することができました。



増穂集落座談会の様子



フェンス設置技術現地講習会

### 鳥獣害防止技術の実証・普及

電気柵の適切な使用・管理の徹底を図ったことにより、定期的な見回りによる電線の破損やたるみの修繕、除草作業が行われ、被害対策に役立ちました。

また、新しい技術として侵入防止フェンスの実証を行い、実証圃の設置作業や現地講習会での技術習得を進め、集落の共同作業でフェンスの適切な施工を行うことができました。

### 被害対策の効果確認

水稲栽培期間中に畦草等の管理を徹底したことで、電気柵設置水田約 300 a が被害を受けず、フェンス実証圃 40 a についても被害を回避できました。実証圃の効果を集落住民が確認できたことで、獣害による耕作意欲低下が原因となる耕作放棄の抑制につながりました。

H25 年度は、フェンスによる対策を実施した約 700 a が被害を回避できると見込んでいます。



畔草の管理が行われた電気柵設置水田



# 集落リーダーの育成と集落営農の推進

## 大洲農業指導班

大洲・喜多地域の中山間地域等直接支払制度に取り組む 141 の協定集落（延べ 2261 戸）のリーダーを対象に将来の営農ビジョンに関する意向調査を実施し、集落リーダーを育成するとともに、集落営農の発展を目指した営農組織の育成を進めています。

中でも大洲市内の3地区（平野町平地、肱川町正山、長浜町柴）では、将来の地域営農ビジョンについて話し合った結果、新たな組織が結成され、作業受託や新規品目の導入など集落の活性化につながっています。

### 関係機関と地区別座談会を開催

市町と連携し、旧市町単位で「人・農地プラン」に関連した地区別検討会を開催し、集落の意向を確認しました。

地域課題については、集落代表や関係機関等で情報を共有化しながら、地域営農ビジョンに関するプランを策定し、その結果17地区で「人・農地プラン」が策定され、新たな地域づくりや営農推進に向けて活動が始まりました。



集落リーダーと地区別検討会



平地地区で新たに夏秋なすを導入

### 集落営農組織の結成に向けて推進

集落リーダー等を中心に検討会を開催した結果、「柴地区」では柴耕作組合を立ち上げ、水稻の無人ヘリ防除（10ha）と刈取等の受託作業に取り組みました。

「平地地区」では集落リーダーを中心に営農推進委員会を立ち上げ、新たに6戸の農家が夏秋なすを導入することとなり、積極的に水田を活用した集落営農活動への取組みが期待できるようになりました。

### 住民アンケートで地域の意向確認

「正山地区」では女性リーダーを中心に営農推進委員会を立ち上げ、3月には地区内の6集落 219 戸を対象に住民アンケートを実施しました。

今後は、地域住民の意見を取り入れながら、原木しいたけ等の地域製品の販路開拓や平成 26 年度に統合により廃校となる正山小学校を利用した新たな地域づくりに向けて支援を行っていきます。



女性が中心となった住民アンケート